

■沿革

大正	7年	4月	中野 富美「松村裁縫速進教授所」を大津市北国町（現：三井寺町）に創設
	8年	4月	「大津裁縫速進教授所」と改称
昭和	3年	4月	「大津裁縫女学校」を開設 中野 富美 校長に就任
	6年	4月	実業学校令に基づく学校に昇格 「大津高等裁縫女学校」と改組
	19年	1月	財団法人純美禮学園設立認可 中野 富美 理事長に就任
	19年	4月	「滋賀高等女子実業学校」と校名変更
	23年	4月	学制改革に伴い新制高等学校に改組 「大津家庭高等学校」に校名変更
	26年	3月	私立学校法の施行に伴い学校法人純美禮学園と組織変更認可
	36年	4月	「滋賀女子高等学校」に校名変更
	41年	2月	中野 富美 理事長死去、松村 信蔵 理事長に就任
	45年	4月	「滋賀女子短期大学」を開学 松原 武夫 初代学長に就任 服飾学科入学定員50人 幼児教育学科入学定員50人 服飾学科に中学校教諭2級普通免許（家庭）及び幼児教育学科に幼稚園教諭2級普通免許授与の課程認定を受ける
	45年	12月	幼児教育学科に保母養成校の指定を受ける
	51年	4月	原山 淑夫 理事長に就任 服飾学科 入学定員を80人に変更 幼児教育学科 入学定員を120人に変更
	55年	4月	「滋賀女子短期大学附属幼稚園」を開園
	56年	8月	中野 幹夫 理事長に就任
	59年	4月	川崎 源 学長に就任
	62年	4月	秘書科を開設 入学定員100人
	62年	10月	滋賀女子短期大学公開講座を開講（以後毎年開講）
	63年	5月	純美禮学園創立70周年記念式典挙行
平成	2年	11月	滋賀女子短期大学創立20周年記念式典挙行
	3年	4月	秘書科 入学定員を150人に変更 服飾学科を生活学科と改称
	4年	4月	岡野 久二 学長に就任
	12年	4月	榎 和子 学長に就任 秘書科をビジネスコミュニケーション学科と名称変更
	14年	4月	幼児教育学科「乳幼児総合研究所」を開設
	15年	4月	幼児教育学科を幼児教育保育学科に名称変更するとともに入学定員を150人に変更 ビジネスコミュニケーション学科 入学定員を120人に変更
	16年	4月	松村 文夫 理事長に就任
	17年	4月	生活学科製菓コースに製菓衛生師養成校の指定を受ける 入学定員40人 ビジネスコミュニケーション学科 入学定員を100人に変更
	17年	6月	中国・浙江林学院と教育・学術交流に関する覚書を締結
	17年	11月	大津市と教育研究活動等を通したまちづくり事業における連携、相互協力の充実等に関して協定書を締結
	18年	4月	板倉 安正 学長に就任 幼児教育保育学科 入学定員を170人に変更

19年	11月	滋賀大学との相互協力協定を締結
20年	4月	男女共学化に伴い「滋賀短期大学」に校名変更
20年	5月	純美禮学園創立90周年記念式典挙行
20年	10月	滋賀医科大学と教育研究に関する包括協定を締結
21年	3月	(財)短期大学基準協会における第三者評価の結果 適格と認定される 生活学科に栄養士養成施設の指定を受ける 入学定員30人
22年	1月	生活学科に栄養教諭免許(二種)授与の課程認定を受ける
23年	10月	ビジネスコミュニケーション学科に日本医師会認定医療秘書養成校の承認を受ける
24年	4月	佐藤 尚武 学長に就任
24年	12月	「地域連携教育研究センター」を設置
28年	3月	(財)短期大学基準協会における第三者評価の結果 適格と認定される
28年	4月	生活学科 食健康コース入学定員35人に変更、製菓マイスターコース入学定員35人に変更
30年	4月	秋山 元秀 学長に就任 生活学科 食健康コース入学定員45人に変更
30年	5月	純美禮学園創立100周年記念式典挙行
令和元年	4月	幼児教育保育学科 入学定員150人に変更 生活学科製菓マイスターコースを製菓・製パンコースに名称変更
2年	4月	「滋賀短期大学附属すみれ保育園」を開園
3年	3月	滋賀短期大学研究紀要「創立50周年記念号」発行
3年	4月	松村 文夫 名誉理事長に就任 秋山 元秀 理事長に就任(学長兼任)
4年	4月	デジタルライフビジネス学科開設 入学定員30人 ※学科連係課程実施学科の入学定員として活用する各連係協力量科の入学定員の内数 (生活学科10人、ビジネスコミュニケーション学科20人) 幼児教育保育学科 入学定員を100人に変更 ビジネスコミュニケーション学科 入学定員を120人に変更